

厚田区地域協議会 第5期総括並びに引継ぎ事項

市町村合併から10年の節目となる第5期は、厚田区が目指す将来の姿『近説遠来』（近くの人が喜び、遠くからおのずと人がくる“まち”、区内の人が喜び、区外から多くの人が訪れ賑わい活気ある“まち”）の実現に向けた一步を踏み出すものとなりました。

まず、複合施設建設構想が地方創生拠点重点「道の駅」に認定される形で結実し、平成30年開業をめどに準備が進められています。これは、延べ16回にわたり重ねられた構想委員会の協議はもとより、地域振興団体の活動（ソフト事業）や『近説遠来』など、これまでの活動が評価されたものと言えます。建物の規模や運営手法等、解決すべき課題も少なくありませんが、道の駅を含む複合的機能が、目指す将来の姿の“遠来”部分として、地域振興の核となることが期待されています。

また、平成26年度から総務省の「地域おこし協力隊」制度を活用し、厚田区に2名の新たな地域活動の仲間が加わりました。最長3年間という任期のなか、地域の活動団体や町内会活動へ参画し、区内のイベント情報はもちろん見過ごされがちな地域の魅力や話題をウェブ（フェイスブック）を活用して広く発信、区内向けには紙媒体の協力隊通信を毎月発行するなど、精力的に活動にあたっており、今後は定住・起業等へのフォローが期待される一方で、「地域おこし協力隊」のみならず「集落支援員」「地域おこし企業人」など様々な制度活用を含め、地域との最適なマッチングの検証と今後のあり方について検討することを期待します。

一方で、第5期の地域協議会では数回にわたり「住民主体による新たな地域づくり～地域、住民を巻き込むための新たな手段、方法を探る～」として議論が重ねられました。これは、地域や先述の各種団体の活動を継続させるためには、活動をPRし参画を募ることが極めて重要であるからに他なりません。年4回発行される「地域協議会だより（厚田区あったかニュース）」や、試験的取り組みとして厚田区内の主な行事・イベントを一覧にし

た「厚田ごよみ」の発行など様々な提案から、団体の活動やイベントのPRに取り組んで来ましたが、幅広い参画を求めるためには、地域の基礎的組織である町内会・自治会との連携を深めることが極めて重要と考えます。地域の声やアイデアを、住民と行政との協働により実現させ、それらの地域活動がつながり広がる取組こそ、目指す姿である“近説”の実現に近づくものと強く認識しております。

これまでの2年間並びに10年間にわたり、地域自治区の理念である「住民自治の推進や特色ある地域経営の実現」に向け、数々の振興団体が発足（活動状況別紙）するなど地域の活発な活動が続けられてきました。これらの動きは、行政主導型の旧来から住民と行政の協働へ移行してきた成果といえます。この流れは地域自治区の設置期間に縛られることなく、これからも住民の創意と責任の下、地域と支所が一体となって進められる自治の形として継続されることを願います。

当初、地域自治区の設置は「合併の日から10年間（協議書第3条）」とされていましたが、東日本大震災の発生により合併特例債の発行が平成32年度まで可能となる法律改正を受け、石狩市は新市建設計画「合併まちづくりプラン」の計画期間を延長し、地域自治区も5年間継続されることとなりました。このことにより、第4期の地域協議会において、打ち出された今後の方向性『今後も「地域協議会」「厚田支所事務所」と変わらない組織が必要不可欠である』が、結果的に実現される形となりました。しかし、その後を見据えた組織のあり方については、継続的に検証と検討が必要であると思われます。

以上、併せて作成が進められている小冊子が地域づくりの一助・きっかけとなることを願ひ総括と引き継ぎ事項と致します。